

令和 3 年度 県立岩瀬高等学校自己評価表

目指す 学校像	○ 社会でより良く生きていくために 必要な資質・能力を身に付ける ことができる学校 ○ 将来のあるべき姿をイメージしながら、 自己のキャリアについてしっかり考え、最良の選択 ができる学校 ○ 「自分の中の力を伸ばせ」という校訓のもと、 明るく伸び伸びと個性を輝かせる ことができる学校 ○ 教師と生徒がともに向き合いながら 、協力して校風や伝統を継承し、さらなる発展を目指し、歩み続ける学校		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
学校の授業が大切である と考える生徒は多数いるが、 家庭学習が習慣化されてい ない。「学ぶこと」への興味・ 関心・意欲を高め、基礎学力 の定着を図るとともに、「主 体的な学び」を実現する。基 礎学力が足りない生徒への 対応として、スタディサブリ の導入により基礎学力を向 上させる取り組みを行う。 目標設定が苦手な生徒が おり、授業、インターンシ ップ、学校行事等で学んだこ とや経験がキャリア形成に生 かせないのが現状であり、自 分の進路を選べない、決めら れない生徒がいる。 学校を通した就職希望者 の決定状況が100%であ った。 全体的に落ち着いている が、基本的な生活習慣の身に付 いていない生徒、頭髮服装や 公共マナー等に対する意識 の不十分な生徒が一部に見 られる。 情報モラルが低い生徒が おり、的確な判断ができな いため、生徒間のトラブルに 発展するケースが見られた。 多くの生徒が看護職に向 けて熱心に取り組んでおり、 目標に向かって真摯に努力 する姿勢が見られる。看護 師国家試験で昨年度96%の 合格が達成できた。	(1) 豊かな人間性の育成	①「道徳」の授業や学校行事等の教育活動全体を通して、規範意識や豊かな人間性を養うとともに、他者や社会・自分とは異なる世界とどう関わるかを学ばせ、 人間関係構築力やコミュニケーション力を培う。 ②「朝の読書」を継続して実施し、静かな時間を共有することにより 豊かな情操と人間性を育む。 ③実習や地域との連携した教育活動を通して、 医療人(看護師)としての高い倫理観と使命感を育てる。	
	(2) 学習意欲の向上	④授業改善とともに、学習評価の在り方を検討しその充実に努めることで、「 探究的に学ぶ 」姿勢を育む。 ⑤シラバスに掲げる授業目標の実現を目指し、実社会との関連を意図した教育を展開することにより、 基礎学力を定着させ、学習への動機付けを高め、主体的な学びの姿勢を育む。 ⑥少人数授業・課外指導等を実施し、個に応じた発展的な学びを推進して 学習意欲を高め、大学入試や国家試験に対応できる学力の向上を目指す。	
	(3) 基本的な生活習慣の確立と生徒指導の充実	⑦全職員の共通理解・実践のもと、 端正な身なり・明るい挨拶・時間厳守の習慣を身に付けさせる。 特に、社会性育成の観点から登下校指導等において「挨拶ができる生徒」の育成を目指す。	
	(4) キャリア教育の推進	⑧「進路の手引き」等を活用し、種々の教育活動や行事等と関連づけながら 一人一人のキャリアプランニング能力を高める。 ⑨実社会の様相や課題解決方法などを踏まえた適切な情報を提供し、 生徒のよりよい進路選択に資する。 ⑩進路指導部と学年との連携を強化し、課外・小論文・模擬面接指導等を通し 個に応じた指導の充実を図り、進路希望の実現を目指す。	
	(5) 魅力ある学校づくりと部活動・特別活動の活性化	⑪ 生徒会活動を活性化 するために、生徒の主体的な取り組みによる学校行事やホームルーム活動等を展開する。 ⑫HR や学校行事等においてキャリア・パスポートを活用し、自分の高校生活を見通したり振り返りを行うことで 自己理解を深めさせ、将来について考え主体的に学び続ける力を育む。 ⑬部活動への加入率を上げ、熱心に活動に励む部活動を積極的に評価することにより、 自尊感情・活動意欲を高め、部活動全体の活性化を図る。	
	(6) 看護教育の充実・5年一貫看護師養成教育の充実	⑭衛生看護科・専攻科の発達段階を踏まえ、5年一貫の利点を活かした教育活動を展開し、看護に関する知識・技術の習得を図り、 将来のスペシャリストを育成するための基盤づくりに努める。 ⑮教科指導・実習指導・載帽式を始めとする各種行事を通して、 看護職への自覚を高めるとともに、看護師としての職業観・倫理観の育成と人間的成長を目指した全人的教育に努める。 ⑯病院・施設等の関連機関との連携を深め、 発展的な学びの場となるよう効果的な実習指導の展開を図る。併せて地域医療の担い手となる人材の育成に資するキャリア教育を展開する。	
	(7) 開かれた学校づくりの推進	⑰地域社会と連携した教育活動を積極的に展開することにより、保護者・地域社会、近隣の小中学校、看護教育機関等との信頼関係を構築し、 開かれた学校づくりを推進する。 ⑱本校の特色ある教育活動を積極的に報道機関に情報提供するとともに、ホームページ等で地域社会に発信し、 本校の認知度を一層高めていく。	
	(8) 業務の効率化と働き方改革の推進	⑲現行の業務内容について点検・見直しを行い、 業務改善を推進し、生徒と向き合う時間の確保を図る。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
国 語	1 基本的な国語力の向上を図る。	ア 漢字力テスト、新聞コラム学習などの取り組みを通して漢字や語句学習への意欲を高めさせる。⑤ イ 話すこと・聞くことの指導を通して、柔軟な思考力や適切な判断力を身に付けさせる。①⑤		
	2 文意を的確に把握する能力を育成する。	ア ICTを活用し、様々な優れた文章に触れさせ、的確に読みとる力を身に付けさせる。①②④⑤ イ 文の組み立て・語句の意味・文法などを理解し、語彙力を豊かにさせる。①②④⑤		
	3 思考力を伸ばし、豊かな心を培う。	ア 様々な文章を読んで、ものの見方・感じ方・考え方を広め深化させる。①②④⑤ イ 朝の読書等を活用し、生涯にわたって読書に親しむ習慣をつけさせる。①② ウ 新聞コラムを活用し、時事問題に対する関心や自らの考えを深めさせる。①⑤⑨		
	4 主体的に表現しようとする力を育成し、伝え合う力を養う。	ア 書くことを通して、思考を整理する力や、自己表現能力を養わせる。④⑤ イ 自分の意思をより正確に伝える経験を積みながら、必要な表現力の基礎を身に付けさせる。①②		
	5 進路目標の実現を図る。	ア 受験に対応した小論文の指導を一人ひとりと向き合いながら行い、自らの進路について、考えを深めさせ、進路の実現を図らせる。⑥⑩⑱		
地歴・公民	1 現代社会でよりよく生きるために、自ら考える姿勢を養うとともに、解決する力を育成する。	ア 時事問題や国際的問題を取り上げ、現代社会の課題やその解決策をICTを活用し考えさせる。⑤ イ 消費者問題・ネット犯罪など、身の回りで起こる具体的な問題についてタブレット等を利用し発表させたりして考えさせる。④ ウ プリント学習などを通して、新聞・ニュースなどでつかわれる政治・経済に関する用語・略語などを理解できるようにするとともに、主権者教育として、主権者としての責務を考えさせる。④⑤		
	2 国際社会に生きる人間として、各国の歴史的事情を理解させるとともに、歴史的思考力を培う。	ア 日本史や世界史の授業で、図版・プリント・視聴覚教材等を用いて舞台となる地域の特徴を紹介する。④ イ 義務教育での歴史学習の復習をするとともに、それを発展させて歴史的イベントの背景とその事件の意義を考えさせる授業を展開する。④⑤ ウ 進学者には受験対応の課外を充実させ、就職者には社会人の教養を身に付けさせる。⑥⑨		
数 学	1 授業を大切にし、授業に主体的に取り組ませ、個に応じた指導ができるようにする。	ア 生徒同士の協働による対話的な授業を充実させ、主体的な学び、そして深い学びへと繋げる。④ イ ICTの利用を含め、分かる授業を実践することによって、生徒を授業に集中して取り組ませる。④ ウ 机間指導を充実させ、苦手な生徒に対し、演習の時間などで個別に指導する。④		
	2 基礎的な計算力を身に付けさせる。	ア 週末課題を実施するとともに、授業中の問題演習を通して、計算力を身に付けさせる。④		
	3 家庭学習の習慣を身に付けさせ、数学に対する深い学びに繋げる。	ア 週末課題の実施により、毎週末の家庭学習習慣を定着させ、数学に継続的に触れることにより、数学に対する深い学びに繋げる。⑤		
	4 授業内容について	ア コンプライアンスを遵守する イ 勤務時間を意識した働き方を図るために業務内容を精選する。⑱		
理 科	1 基礎学力の向上を図る。	ア ICTの利活用を通して、単元ごとの到達度チェックや単元課題等の提出機会を設け、学習事項の定着を確認する。またその効率化を図る。⑤⑱ イ 成績不振者に対しては学期ごとに補講(学びなおし)を行うなど、学習フォロー体制を充実させる。⑤⑥		
	2 分かる喜びを実感させる。	ア 生徒の実態に合った授業を展開し、既習事項との関連付けや系統性を持たせることで理解の定着を図る。④⑤ イ 実験や観察を取り入れ、生徒の興味・関心を引き付ける授業を展開する。また、教材・教具の視点の共有化を図る。④⑤⑱ ウ ICTを利活用し、生徒と関わる機会と意見交換の場を充実させる。また遠隔授業にも対応できる体制を構築する。④⑱		
	3 豊かな科学的素養を涵養する。	ア 科学的に探究する過程を通して学習を進め、科学的な思考力、表現力、判断力を養う。⑤ イ 身近な生活や自然環境と科学との関わりを重視した指導を行う。④⑤		

保健・体育	1 基本的習慣の徹底を図る。	ア 服装・集合時間などの基本的習慣が身に付くよう徹底させる。④⑤			
	2 基礎体力の向上を図る。	ア 体力テストの結果をもとに、個々の健康状態等にも配慮し、一人一人に合った目標を設定させ日々の生活で実践させる。⑤⑨⑱			
	3 生徒の自主性を引き出す。	ア 生徒が自主的に実施できるような教材を提供し、積極的な活動に繋げていく。⑨⑪			
		イ 各自の能力に応じて具体的な目標設定をし、達成に向けて努力させる。⑨⑬			
		ウ ICTを活用し課題解決に向けた思考力・判断力・表現力などを育成し、主体的に取り組む姿勢を養う。④			
	4 保健学習を通し、健康的な生活習慣を身に付けさせる。	ア 知識の獲得だけでなく、生涯にわたり健康的な生活習慣を身に付けるきっかけとなるような学習内容を精選し、教材選定についても工夫していく。⑨⑫			
芸 術	1 生徒が生涯にわたって芸術を愛好することができるよう、指導を工夫する。	ア 知識や技術偏重にならないよう、バランスの取れた指導を行う。④⑤			
	2 生徒の個性を生かす指導方法を工夫する。	ア 生徒が自ら課題を見つけ、主体的、創造的に活動できる場を設定する。④			
		イ 各領域の幅広い活動を可能にする多様な題材の設定と教材を工夫する。④⑤			
	3 指導に生かす評価を実施する。	ア 生徒自身の自己評価、相互評価を取り入れた評価を行う。④⑤			
英 語	1 高校英語の基本的な知識の定着をねらい、指導方法を工夫する。	ア 1、2年生の少人数クラスでは、暗唱・リーディングプラクティス等を実施し、きめ細かで丁寧な指導を行い、生徒の実態や個に応じた授業を展開する。⑥			
		イ ノートの作り方を指導し、学んだことを定期的に振り返る習慣を促し、基礎学力の定着を図る。⑤			
		ウ 実生活で使える単語や表現を学ぶことで、学習への動機付けを高め、主体的な学びの姿勢を育む。⑤			
	2 実践的なコミュニケーション能力を育成する。	ア ALTを活用し、実践的なコミュニケーションの必要性、楽しさを実感させる。①④			
		イ クラスルームイングリッシュを教員、生徒ともに使い、英語を使用する機会を増やす。④⑤			
		ウ リスニング、ペアワーク、グループワーク、インタビュー等の活動を行い、生徒が主体的・協働的に英語を使用する場面を増やす。④⑤			
	3 学習意欲を増進させるように、関心・意欲を高める授業を実践する。	ア 地図・写真・ビデオ、英字新聞(Student Times)等を利用し、各単元に出てくる地域やテーマの背景・状況について理解を深めさせる。①④			
		イ デジタル教材を利用した内容理解や、タブレットを利用した生徒同士のやり取り、英語でのプレゼンテーションなど、ICTを活用しながら英語の4技能を向上させる。①④			
	4 進路目標の達成を図る。	ア 英検受験を奨励し、個別に対策指導を行う。また、1年生全員と2、3年生の希望者に全商英検を受験させ、合格者数を増やす。⑩			
		イ 課外授業や補習授業を充実させ、生徒からの質問を促し、自ら学習する態度を育てる。⑥⑩			
		ウ 外部模試の受験を奨励する。⑥⑩			
家 庭	1 基本的な知識と技術の習得を図り、生活課題を解決できる能力を高める	ア 生徒が意欲的に学習に取り組めるような資料を活用した授業展開を行い、自らも課題を見出して解決していく活動を中心に学習を進める。⑤			
		イ 学習したことを活用して、生活課題の解決策を考察して、生活の改善につなげる態度を身に付ける。④			
	2 実習をととして、課題に取り組む意欲と技術を身に付ける	ア 生徒の能力に合った個別指導を行い、技術の向上と達成感を体感させる。⑤			
		イ 生徒に主体的な学習を促し、机間指導を行いながら個人の指導にあたる。⑱			
情 報	1 コンピュータの活用を通して、情報を適切に処理するための基礎的な知識と技能を習得させる。	ア 個に応じた学習や課外授業・補習などを通して、コンピュータを活用する能力を身に付けさせる。⑤			
		イ アプリケーションソフト(ワード・エクセル・パワーポイント)を活用する能力や技能を学習し、情報化社会で生きる力を身に付けさせる。動画などの教材を活用し効率化を図る。			
	2 情報モラルについて考えさせ、情報の適切な扱い方を学ばせる。	ア 情報化社会でよりよく生きていくために必要な、情報の扱い方や情報モラルを動画や事例などを活用し、生徒との向きあう時間確保する。④⑱			

商 業	1 情報処理の基礎的な知識・技術の習得、及びビジネスの諸活動に活用する能力を育成する。	ア 商業に関するスペシャリストとしてコンピュータを活用する授業を展開し、ビジネス文書実務検定などの学習ではスタディサプリやNHK、県教委などの共有教材を活用し効率化を図る。④⑱			
	2 ビジネス諸活動における情報処理、プレゼンテーションに関する知識・技術の習得を図る。	ア ビジネスにおける実践的な表計算やプレゼンテーションをアクティブ・ラーニングによって学習し、コミュニケーション能力を高める。グループ学習を多用し生徒と向き合う時間を確保する。④⑱			
	3 経営活動における会計処理に関する知識・技術の習得を図る。	ア 企業経営に欠かせない簿記会計に関する記帳方法や会計処理の能力等を、個に応じたICT教育を通して高め、教材等の効率化を図る。⑤⑱			
衛生看護科	1 看護師という職を通しての自己実現を目指すとともに、看護師としての職業観と豊かな人間性を育む。	ア 早期から看護師国家試験問題を取り入れた学習を工夫し、学習進度に応じた模擬試験を組み立てることで、看護師国家試験に対する意識を高め、知識の定着および学習習慣の確立を図る。⑥⑭			
		イ 進路ガイダンスや進路の手引きの活用、面談などを通して一人一人の生徒と向き合い、希望にあった就職・進学活動を支援する。⑧⑨⑩⑱			
		ウ 教科指導・生活指導および看護科集会・戴帽式等の行事を通して、あるべき看護師像を考えさせることにより、看護科生徒としての自覚と医療に携わる者としての資質を高める。③⑭⑮			
		エ 生命・医療に関する講話、JICAや国際福祉機器展等の体験学習、ボランティア活動等を通し職業観の涵養と豊かな人間性の育成に努める。⑭⑮			
		オ 看護実践において情報を適切に活用できるよう、情報の信頼性を判断する能力および情報モラルを身に付けさせる。⑭⑮			
	2 発展的な学びができるよう臨地実習の円滑な運用を行う。	ア 生徒や臨地の実態を踏まえ、実習内容及び方法を精査し、生徒が安全にかつ効果的に実習が行えるよう実習の環境を整える。⑩			
		イ 臨地に近い状況での校内演習（臨床指導者・保護者ボランティアの協力やシミュレーション教育等）により、生徒の知識・技術の定着を図るとともに円滑な臨地実習の展開に努める。⑭⑯⑰			
		ウ 生徒の個性や習熟度、施設の特性等に合わせて実習指導ができるように、実習指導者と共通理解を図り、連携した指導を行う。⑭⑯			
		エ 生徒自ら実習の見通しを立て、看護の体験を通して知識・技術を活用し主体的に取り組むことができるよう、個々の実習目標および実習課題に沿った支援を行う。⑭⑯⑲			
	3 看護を学ぶ楽しさ、実践する喜びを感じる教育活動を行う。	ア 5年間を見通した段階的な学習を行うとともに、生徒の主体的・対話的で深い学びとなる授業の充実・改善に努める。④⑤⑭			
		イ オンライン授業の円滑な運用やICTを活用した授業の充実・改善に努める。④⑭⑯			
		ウ 生徒が小さな達成体験を積み重ねることによって自己有用感・自己効力感を高める教育活動に努める。④⑤⑮			
教務部	1 教育課程の適正化に努める。	ア 教育課程の定期的な把握を行い、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得しやすい教育課程環境の維持に努める。⑤			
		イ 生徒の能力を測りながら、希望進路実現にかなう柔軟な教育課程を編成する。⑥			
	2 指導力の向上に努め、授業の充実を図る。	ア 各教科で年間指導計画を作成し、生徒の主体的に学習に取り組む態度を育成する。⑤			
		イ 教員相互の研修を充実させ、指導法の工夫、研究を図り、アクティブ・ラーニングの視点から不断の授業の充実改善に努める。④⑤			
	3 授業時間の確保を図る。	ア 学校行事の精選や出張・年休時の授業交換に努め、95%以上の授業を確保する。⑤			
		イ チャイムスタート、チャイム終了を徹底し、50分の授業の充実を図る。⑤			
		ウ 各校務部・各学年・各教科などとの連絡を密にし、各行事の時間や内容などの情報収集に努め、その円滑な運営や改善を図る。⑩⑪			

	4 開かれた学校づくりを目指す。	ア 各種学校案内業種からの要望に可能な限り対応し、本校の活動実績、魅力の発信に努める。また、スクールガイドの充実を図り、積極的に情報を提供する。⑬			
		イ 保護者、中学校への広報、学校説明会等で、本校のよさを十分に発信できるように努める。⑬			
	5 校内ネットワークの整備を行う。	ア 茨城県立学校統合型校務支援システムを適正に運用し、正確な成績処理及び諸帳簿の作成に努める。④			
		イ 他の分掌と連携しながら、分かりやすく魅力あるWEBページを編集し、本校教育活動の積極的な情報発信に資する。⑬⑭			
		ウ 教育情報ネットワークの円滑な利用をサポートする。			
		エ 校内ネットワーク、サーバの安定的な運用に努め、情報を共有することにより校務の負担軽減及び効率化を図る。			
		オ 情報セキュリティ対策や、ソフトウェア製品の脆弱性対策に努める。			
	6 図書館の環境整備を行う。	ア 調べ学習の円滑化と読書の推進を図るために、廃棄及び更新を適切に行い、利用しやすい環境を作る。②⑨			
		イ 季節や学校行事等に合わせたテーマ別コーナーを設置し、時流に応じた図書の紹介や情報の発信をする。①			
		ウ 教員のための研修の場としての環境を整える。①②			
	7 豊かな人間性の育成を図る。	ア 情勢に根ざした文化・教養の発信を図る。⑨⑩			
		イ さまざまな教養講座の体験を通して、豊かな人間性の育成を図る。①⑨			
	8 図書委員会活動の活性化を図る。	ア 図書館行事の企画運営や図書館便りの発行によって、図書館の情報発信の担い手としての人材育成を図る。①⑪⑫			
進路指導部	1 生徒にとって有益な進路情報を提供し、適切な進路選択ができるよう促す。	ア 「進路の手引き」を活用し、自己理解・進路理解に向けた指導を行う。⑧			
		イ 進路ガイダンスや進路指導部通信の発行などを通して、生徒に有益な進路情報を提供する。⑧⑨			
		ウ インターンシップを通して、就業意識や進路目標の設定を促す。①⑧⑨			
		エ 多様な入試制度についての理解を深め、生徒に適切な情報を提供する。⑨			
		オ 公務員講座や介護福祉初級講座など進路実現を促す経験の場を提供する。⑧⑨			
	2 基礎学力の向上を図ると共に、希望進路に対応できる学力や思考力を身に付けさせる。	ア 各種課外を計画的に行い、学力の養成を図る。⑥⑩			
		イ 高校生のための学びの基礎診断認定ツールであるスタディサプリを課題などに活用して生徒の利用を促し、また到達度テストと連動した朝学習を行い、基礎学力の定着を図る。⑤⑩			
		ウ 模擬面接指導を通して、自己理解とコミュニケーション能力の養成を図る。①⑨⑩			
	3 各学年及び家庭との連携を深め、効果的な進路指導を目指す。	ア 形骸化した行事の見直しを含め、各学年との連携を深めながら、進路指導についての共通理解を図る。⑩⑪			
		イ 必要に応じて、保護者との進路相談の機会を設け、進路選択の支援をする。⑨			

生徒指導部	1 基本的生活習慣の確立を図る。	ア ネクタイ・パータイなどの身だしなみを整え、本校指定の制服を正しく身に付けさせ、規範意識を確立する。①⑦⑫			
		イ 適切な言葉遣い、挨拶等とおして高校生としてふさわしい生活習慣を身に付けさせる。①⑦⑫			
	2 高校生としての自覚を持ち、責任ある行動がとれるようにする。	ア 生徒指導に関する教員間の認識を統一する一つの方策として、朝と放課後の登下校指導を継続して実施する。⑦			
		イ 特別指導の減少を目指し、学年・担任を中心に教職員全員で生徒情報の共有化を図り、生徒の実態に応じたきめ細かな指導を行う。⑦			
		ウ 登下校の状況やスマートフォンの使用状況を定期的に点検・確認し、生徒たちが安全かつ安心して生活できるよう支援する。⑦⑫⑬			
	3 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め、実態把握およびいじめに対する措置を適切に行う。	ア 生徒の自己有用感を高め、生徒から相談しやすい関係を構築するとともに、定期的にアンケート調査を行い、生徒の実態を把握し、未然防止・早期発見に努める。①⑦⑬			
		イ 保護者から相談しやすい関係を構築するとともに、いじめの早期発見に努める。⑬			
		ウ いじめ発生の際には保護者との連携を図り、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行い、早期解消に努める。⑬			
		エ 保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。⑬			
		オ 情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適宜に行う。⑬			
保健厚生部	1 健康に興味・関心を持ち、自己の健康状態を正しく把握し、健康管理に努めるよう指導する。	ア 健康診断・身体測定などの実施とともに、事後措置の徹底を図る。①			
		イ 生徒の心身の健康保持・増進を図るために、継続して教育相談を実施する。①⑱			
		ウ 感染症拡大防止の対応を徹底して行う。①			
		エ カウンセリング体制の整備と、カウンセリングルームの積極的な活用を図る。①			
	2 校内の清掃を徹底し、環境美化に努める。	ア 清掃区域割り振り計画の策定と清掃用具の調達を行う。①			
		イ 学期末大掃除を実施する。①			
渉外部	3 防災意識の高揚及び安全迅速な避難行動の確立。	ア 積極的・自発的な避難訓練を実施する。①⑱			
		イ 震災の教訓を生かし、停電時の緊急連絡・緊急避難を想定して行う。①⑱			
	1 PTA活動の活発化に努める。	ア 育成・研修・広報の委員会活動をさらに充実させ、PTA 本部役員が中心となって多数の保護者が各種行事に積極的に参加できるよう働きかける⑱			
	2 PTA役員・保護者との緊密な連携を図る。	ア 評議員会等において、保護者からの率直な意見に耳を傾けながら、話し合いの機会を充実させ、本校の教育に生かせるように努める。⑱			

事務部	1 学校の窓口としての的確な接遇を行う。	ア 電話や窓口等においては、誠意ある態度・応対によって県民サービスの向上を図るとともに、生徒や保護者との関わりを通じて相互の信頼関係を高めるよう取り組む。⑮			
	2 予算を計画的・効率的に執行する。	イ 限られた財源の中、将来を見通した教育環境整備を図るため、計画的・効率的に予算を執行する。⑲			
	3 安心安全な学校生活のための施設管理を行う。	ウ 学校施設の日々の点検及び修繕により、生徒が安心して安全に教育活動を行える教育環境の設備・保全に取り組む。⑲			
第1学年	1 基本的生活習慣を確立する。	ア 遅刻者・欠席者の減少に努め、皆勤を目指し、欠課時数増加を抑える。⑦			
		イ 学年集会やHR等を通して、端正な身なり・明るい挨拶・時間厳守の習慣を身に付けさせる。⑦			
		ウ HRや休み時間を通して生徒とのコミュニケーションを図る場面を多く設け生徒理解に努める。⑲			
	2 基礎学力の向上を図る。	ア 実力診断テスト等のデータを活用し、基礎学力の定着を図る。⑤			
		イ 授業のノートや提出物等にきちんと取り組ませる。⑤			
		ウ ICT機器を活用し、探究的な学びの機会を授業に多く取り入れていく。			
	3 道徳性を身に付ける。	ア 「道徳」の授業や学校行事等を通して、社会性・人間性豊かな人材を育成する。①			
第2学年	1 基本的生活習慣の徹底を図る。	ア 欠席者・遅刻者の減少に努め、欠課時数の増加を抑える。⑦			
		イ 学年集会やHR等を通して、端正な身なり・明るい挨拶・時間厳守の習慣を身に付けさせる。⑦			
		ウ 規範意識の高揚を促すため、生徒と向き合う時間をつくるよう取り組む。⑦			
	2 進路意識の高揚を図る。	ア インターンシップや進路ガイダンスを通して、職業意識を身に付けさせるとともに、進路実現に向けて学習意欲を喚起させる。⑧⑨			
		イ 各種課外や模試を計画的に実施し、進路希望に対応した学力養成を目指す。⑥			
		ウ 探究的な授業への取り組み方を重視し、基礎学力の向上と家庭学習の習慣化を図る。④⑤			
		エ ICTを活用し、業務内容の効率化を図り生徒と向き合う時間を確保する。⑲			
	3 HR活動を充実させる。	ア HR活動や面談等を通して生徒理解に努め、問題行動の未然防止を図る。⑪⑫			
	4 修学旅行を充実させる。	ア 修学旅行の事前・事後学習及び各教科での主体的な学習を通して、歴史・文化と平和への理解を深める。④			
第3学年	1 基本的生活習慣の徹底を図る。	ア 最高学年としての自覚を持たせ、規範意識の高揚と豊かな人間性を養う。①			
		イ 遅刻・欠席者の減少に努め、皆勤を目指す指導をする。②⑦			
		ウ 正しい言葉遣いや態度、挨拶・服装・頭髮等の指導で、けじめある生活を定着させる。⑦			
	2 進路実現のための意識及び学力の向上を図る。	ア 課外や模試を計画的に実施し、進路実現のための学力を養成する。⑥⑩			
		イ 就職問題集等の活用を通して、学習習慣を身に付けさせる。⑤⑩			
		ウ HRやガイダンスを通して、ICTを活用し一人一人のキャリアプランニング能力を高め、社会に出るための下地をつくる。⑧			
	3 保護者・地域社会との連携を図る。	ア 三者面談や進路行事を通して、保護者との連携を図り進路指導について信頼関係を構築する。また、家庭との連絡を密にし、卒業と進路実現に向けて意思疎通を図る。⑨⑰			
		イ 配慮を要する生徒・家庭について、教員間での情報を共有し支援に努めるとともに、外部機関・各校務分掌との連携を図り、生徒や保護者と向き合う時間を確保する。⑰⑲			

評価基準： A : 十分できた。良い結果が出ている。うまくいっている。 B : よい。まずまずの結果である。
C : やや不十分である。努力を要す。 D : 不十分である。かなり努力が必要である。